

# 第56回宮崎県公立小中学校事務研究大会報告

発行者 宮崎県公立小中学校事務研究会

## 大会テーマ

「共同学校事務室」で想いをカタチに！～みんなで今できることを考えよう～

## ～ 目次 ～

午前の部	○開会行事	午後の部	○全体研究会Ⅰ	期日:	令和2年1月24日(金)
	○研究部報告		○全体研究会Ⅱ	会場:	新富町文化会館
	○行政説明				

## 開会行事

・開会のことば	宮崎県公立小中学校事務研究会 副会長	本田 香織
・会長挨拶	宮崎県公立小中学校事務研究会 会長	宮里 昌也
・県教委挨拶	宮崎県教育庁 教職員課 課長補佐	長倉 正朋
・県市町村教委連合会挨拶	宮崎県市町村教育委員会連合会 会長	今門 幸藏
・県校長会挨拶	宮崎県校長会 副会長	竹内 一久
・来賓	宮崎県教育庁 教職員課 給与・電算担当	筒井 宏

## 研究部報告 テーマ：「アンケートから探る共同学校事務室の取組」

研究基調では、西山研究部長より求められている事務職員像とこれまでの研究部の取組を説明し、今年度の研究大会は「共同学校事務室」に焦点をあて、会員に行ったアンケートの集計結果から分析を行い、本県における現状と課題について報告がありました。

「質問1.効率化したい業務はあるか」では、右図の様なグラフや表を用いて報告を行いました。

「質問2.質問1で記入した業務を共同学校事務室を活用して改善する場合、どのような方法が考えられるか」では、「共同学校事務室ではいったい何をすればいいの？」という疑問の声が多くあったため法律及び政令を改めて説明し、共同学校事務室というツールを使い、教育委員会と話し合い、連携校と合意形成し、協働・協議を行うことで、各事務職員の資質向上を図ることが、主体的・積極的な校務運営への参画に一步一步つながっていくのではないかと説明しました。

「質問3.質問2で共同学校事務室が業務の効率化を図り生み出した時間で、自分の学校で取組みたいことはなんですか」では、「市町村教委との協議の時間の確保」や「共同実施において本来の主任業務を果たしたい」等の意見があり、各関係機関や各連携校との合意形成や共同学校事務室のさらなる充実に取り組みたいことが伺えました。

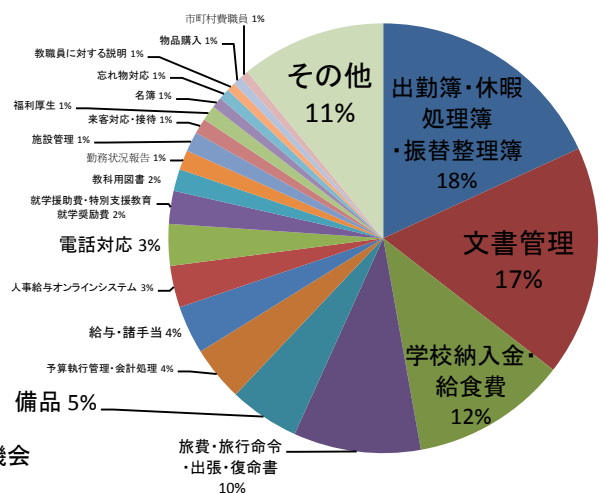
このアンケートをとおして、会員が「共同学校事務室」について考える良い機会になりました。

共同学校事務室の仕組みを活用した改善方法のアイデアがたくさんあり貴重なデータバンクとなりました。また大会後のアンケート結果からも、今後共同学校事務室として取り組んでいく内容が確認でき、良かったという感想が多くありました。

知事部局と学校の差異をいかに融合させ、統一していくかがポイントになるという意見もありました。

「改正法」に関する通知の第四の(留意事項)中で、「共同学校事務室の制度化」により事務の共同処理を実施する際の「責任・権限の関係の明確化」「共同学校事務室でのOJTを実施することで事務職員の育成及び資質の向上」「事務処理のさらなる実施や事務体制の強化」が期待されるとあります。室長はこのことを念頭に「共同学校事務室」を運営、活用していくこととなりますが、連携校との合意形成だけでなく市町村教委、管理職との共通理解を図りながら協議を進めることが重要になります。室長だけでは共同学校事務室の運営は出来ません。構成員である事務職員一人一人、管理職、市町村教委各自が「当事者意識」を持ちコミュニケーションを図りながら「合意形成」して取り組んで行くことが重要とのことでした。

効率化したい業務の統計



## 行政説明 テーマ：「学校事務の未来と共同学校事務室」

講師：宮崎県教育委員会 教職員課 給与・電算担当 寺原 智博 主幹

学校事務のこれまでの歴史を振り返りながら、これから共同学校事務室への移行する上で大切なこと、学校事務の未来について、教職員課寺原主幹より下記2点を中心に説明をいただきました。

- ①共同学校事務室へ移行することで、共同実施では上手くいかなかったことが上手くいくとは限らず、市町村教委、教職員との使命、目的、ビジョン、目標を明らかにし、関係者全員の納得の上で共有することが必要である。
- ②これから先の学校教育、学校事務は何が必要なのか、何をすべきなのか、逆算して目標や計画を立てることが大切であるが、時代変化に伴い、目標や求められる力も変化していくので「合意形成」、「当事者意識」、「one team」の3つを各々が意識して業務に取り組んでいく必要がある。



参加者からは「事務職員としての使命、目的、ビジョンを持ち続ける個々の意識向上の重要性を改めて感じました」「教職員の負担軽減だけを考えるのではなく、学校全体を見通し考えた上で、学校というチームの中でどういった役割を果たすべきか、自分の得意なこと強みを出しつつ、チームに貢献していくことが大切だと感じました」等の感想をいただきました

## 全体研究会 I トークセッション第1部

- パネリスト
- 五ヶ瀬町 飯干 智裕（五ヶ瀬町教育委員会）
  - 美郷町 西 智之（美郷町立西郷中学校）
  - 川南町 二宮 可奈子（川南町立川南小学校）
  - 都城市 斉藤 弘文（都城市立妻ヶ丘中学校）
  - 小林市 鶴田 健介（小林市教育委員会）

- コーディネーター 宮崎市 宮里 昌也（宮崎市立赤江小学校）

トークセッションでは、今年度共同学校事務室がスタートした地区の現状や導入に至る経緯、今後取り組もうとしている事業等を全体で共有することを目的に行いました。

まず、各市町村のパネリストより共同学校事務室を導入した流れを説明し、実際に取り組んでいる業務の報告及び取り組もうとしている業務の報告や共同実施の課題等について話していただきました。五ヶ瀬地区では五ヶ瀬教育クラウドビジョンの活用、美郷地区では町立図書館と共同学校事務室の連携、川南地区ではバディー制(2校で1つの体制)、都城地区では都城市と協力し避難所運営マニュアルの策定し防災面で学校運営に参画、小林地区ではSSC(小林市スクールサポートセンター)の活用など様々な各地区の取り組み内容を全体で共有できました。しかし、共同学校事務室へ移行して、日も浅いことから業務内容も今までと大きくは変わっていないところがほとんどでした。市町村地区それぞれに特色や地域性があります。実状に応じた共同学校事務室の在り方を模索し、特色を見極めつつ推進していくことが大切であり、そのために、今まで以上に密に市町村教委と連携を図り、一体となって進めていくことが重要であると感じました。

最後に今後の展開として集中処理してできた時間に何をするのか、各個人が当事者意識を持ちトークセッション第2部に臨みましょうと宮里さんが結び、トークセッション第1部を終えました。



## 全体研究会 II トークセッション第2部

第2部では、スマートフォンを活用した参加型トークセッションを実施しました。

効率化したい業務で挙げられた、出勤簿・休暇処理簿整理、文書管理、備品整理の3つのテーマを基に「共同学校事務室」についてグルーブトークを行いました。

出勤簿・休暇処理簿の整理について、知事部局のようなパソコンの開閉で出退勤の把握ができるシステムを導入してほしいとの意見がほとんどでした。簡素化、デジタル化して、毎月の整理の負担を減らしたいという声が多く挙がっていました。

次に文書管理は、共同学校事務室または共同実施の中心校等で一括で文書を受付し、各学校へ配布処理するという意見が多く挙がっていました。また、近年のペーパーレス化に伴い、紙ベースではなく、データでの配信にすべきという意見もありました。

そして備品管理については、市町村教委と連携し、備品台帳の共有を行う、各教科担当の職員に責任を持って管理してもらうなど、様々な意見が出ていました。また、共同学校事務室での一括管理という意見も出ていました。

3つの大きな課題について、各学校と意見交換を行うことができて、大変有意義な時間でした。

